

「喜び・祈り・感謝する」

テサロニケの信徒への手紙Ⅰ 5章16～18節

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。

大学総務課リーダー 円城寺 真紀

このみ言葉は、私が聖学院に職員として入った時に、与えられたみ言葉です。

与えられた時、いつも喜んでいられるのか？どんなことにも感謝できるのか？この通りに行う事は自分にできるのだろうかと感じました。

生きていれば、喜んでいられるばかりではありません。苦しい時にも感謝できるのか。

その時の私は、仕事を覚える事と環境に慣れる事で必死でした。不器用ですので、仕事を覚えるのも時間がかかり、うまくいかない日々が続いていました。いつも悪い事ばかりにとらわれていました。しかしそのような中でも、祈りだけは、どんな時も祈っていました。悩んだ時、苦しい時、感謝の時。

祈っていく中で、私の中の色々なものが変わっていきました。物の見方や考え方や捉え方です。苦しい中でも神様は見守って支えてくださいました。悪い事ばかりではなく喜びにも気づかせてくれたのです。自分自身が変わることによって環境も良い方向に変わっていきました。

言葉を与えられた時から十数年たちますが、喜びを与えられる事を待つのではなく、すでに与えられている喜びに気づく事、そしてそれらを与えられている事に感謝しています。

食事ができたこと、楽しく会話ができたと、きれいな空が見れたこと、守られていること、命が与えられていること。

皆さんも、日常のちょっとした喜びに気づいてみてはいかがでしょうか？

なかなか悩んでる時や苦しい時には、喜ぶ気分にはなれません。そんな時は、悩みや苦しみは神様に祈りお委ねして、与えられている喜びに気づき、感謝をする。

そのような積み重ねが大切なのではないかと思います。

人生は、良い事ばかりではありません。苦しい時、つらい時、何も見いだせない時、長い時間抜け出せない事もあります。そんな時でも、神様は必ず喜びも与えてくださいます。辛いからこそ、見えてくるものがあります。神様からの恵みに気づくことができたなら幸せなのではないかと感じています。

ここで、私の好きな星野富弘さんの詩を紹介したいと思います。

星野富弘さんは若い頃、中学校の教諭でしたが、クラブ活動の指導中に頸椎を損傷し首から下の運動機能を失いました。

それから口に筆をくわえて、文や絵を描いています。クリスチャンの方です。

その絵や文は、とても暖かみがあります。

「命一式」

新しい命一式ありがとうございます。
大切にに使わせて頂いておりますが、
大切なあまり仕舞いこんでしまうこともあり
申し訳なく思っております。
いつもあなたが見ていて下さるのでし
使い込めば良い味も出て来ることでしょうか
安心して思い切り使って行きたいと思っております

著書「いのちより大切なもの」より 星野富弘

いつも喜び、絶えず祈り、どんな事にも感謝しながら、精一杯人生を歩んでいけたらと、思っています。

【祈り】

恵深い愛する天のお父さま、今日こうして全学礼拝の奨励の場を与えられました事を感謝いたします。
今、何かに悩んでいる方や体に不調を覚える方がおりましたら、あなたが癒しの御手をそそいでください。
また、今日も神様の御心に叶う1日になりますように、お守りください。
この感謝と願いを主イエス・キリストの尊い御名を感謝してお祈り申し上げます。
アーメン

2021年11月26日 聖学院大学 全学礼拝